

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第92号(2014.11.1)
事務局川西地区自主防災会

大型量販店として、 県内初『営業中における防災訓練』の実施について

株式会社フジ
フジグラン丸亀 店長 徳永隆明

1. フジグラン丸亀の概要

フジグラン丸亀は、平成11年7月オープン、丸亀市川西町南の土器川沿い67000㎡のショッピングセンター。

入店店舗は、株式会社フジの食品館・生活館とダイキ株式会社を核とし、株式会社レディ薬局・株式会社大創産業・株式会社すかいらーく・株式会社宮脇書店などの飲食・物販店舗に、株式会社百十四銀行・日本郵便株式会社・丸紅エネルギー株式会社といった生活に密着した施設を加えた、計44の店舗がある。

2. 地域連携を主体とした店舗運営

川西地区自治会へ加入しており、自治会主催の防災まつり・健康ウォークなどへの参加、秋まつりの協賛のほか、日々の営業の中では、廃棄物減量化・リサイクル対策としてのエコステーション設置～店頭リサイクル回収（食品トレイ、紙パック、アルミスチール缶、充電式電池）に取り組み生活拠点としての役割をしている。

県産品の普及への取り組みとして、青果を中心とした「地産地消・地元の逸品」コーナー設置し、地元銘菓・土産品の取り扱い販売をしている他、保育所・小学生による母の日・父の日似顔絵コンテストを毎年実施、中高生・養護学校の生徒の職場見学・実習に協力している。

自治会との合同清掃(土器川周辺)



自治会主催の健康ウォーク参加





3. 営業中における防災訓練の狙い

ひとつ目の狙いは、『お客様』への防災に対するのアピール(意識付け・意識向上)であるが、結果として『ショッピングセンターでの防災・避難』がどういったものかを理解していただくのが狙い。

ふたつ目の狙いは、従業員のスキルアップ。年4回の防災訓練・避難訓練を実施しているものの、実際のお客様を避難誘導する機会はなかった。

今回、お客様参加型の訓練で、どのようなアクションが必要か、どれだけ大きな声が必要か、など、更に「真に迫る」取り組みをすることで、従業員の防災スキルのアップを狙った。

川西地区自主防災会の力添えで今回の訓練の実現となったが、『共助の精神、地域・お客様・企業の連携』によって、防災訓練が出来たことは大きな前進となった。

4. 営業中における防災訓練の内容

震度6強の地震発生からの一斉シェイクアウトの呼びかけに始まる。ショッピングセンターにおいては、「買い物カゴ」で頭を守る道具として身近にあるもの。約30秒の安全行動から実施した。

従業員も同様の姿勢をとった後、電気ガス施設の確認、避難路の確保の行動。館内放送に並行して、お客様を広い通路から店舗外への避難誘導と次の地震に備える行動実施。





けが人を4名に設定し、内2名分は約40キロの訓練用の人形で実施。



けが人搬出と同時に、パン屋のオーブンから出火。10名の消火器隊と5名の消火栓隊に分け模擬消火を行う。鎮火に成功の設定から残留者が居ないことを確認し全員退避した。



訓練後、丸亀市役所危機管理課の泉田様、フジグラン丸亀の徳永店長、川西地区自主防災会の岩崎会長より、講評いただいた。

5. 訓練終了後のお客様の反応など

当店が「初」の営業中訓練なので、当然、お客様も初めて。 恥ずかしさからスムーズにシェイクアウトの第一行動が取れない方もいらっしゃいましたが、フジの従業

員の誘導により行動出来ていた。

シェイクアウトの3段階の行動について、理解いただけたと思います。

真剣に取り組んでいる方も多数おり、フジ従業員の士気も高まった。

緊張されずリラックスして取り組んでいただいた。訓練としては十分ではないが、訓練参加の入口としてはある意味、楽しく参加していただけ良かったと思います。

6. 訓練終了して次期開催の反省点 具体的に

臨場感を出す為に、(運営する側として)

- ・ 店内放送での効果音についての課題が残りました。
消火栓の使用は初めての者が取り扱いましたが、ホースの処理について一人では出来ないことが分かりました。今回の訓練では、ホース捌きを1名で計画していましたが、実際は急遽応援してもらい6名で実施しました。
- ・ 男性の参加を増やし、もっと「声」が必要に感じた。実際の災害時には災害其の物の音の他、物が崩れる音や悲鳴も想定される。
- ・ 火災現場にパトライトやドライアイスで、消火班に分かり易い工夫が必要だった。
- ・ 店内照明も暗くすると、更に臨場感が出るが、お買物をしているお客様もいる為、若干落とすだけで実施した。

避難誘導員には誘導の旗を渡していたが、次回はハンカチやレジ設置の懐中電灯も併用して実施する。

お客様の避難は、地震直後で終わっていたが、火災時の避難の際は、ハンカチを口に当て～姿勢を低くする必要がある。

その様に誘導案内する必要があったと共に、頭を保護していた買物カゴを店外まで持って出るよう誘導する。

7. 訓練参加者の感想など

お客様

- ・ 城辰保育所の先生・園児は、自部署でも取り組んでおり、慣れていたが、今回のスーパーでの実施により、更に良い経験になった。
先生が率先して取り組んで入った為、スムーズに進んだ。
- ・ 食品売場での地震の際は、シェイクアウト後、広い通路に出ることが分かった。
- ・ 粗品が貰えて良かった。

自主防災会

- ・声もよく出ており、フジ従業員～お客様へ、誘導・指導していただいた。

従業員

- ・避難誘導員は、もっと緊迫感を以って、棒立ちせずオーバーアクションが必要と感じた。
- ・人数が多いと走って避難出来ないことがわかった。
- ・店内アナウンスについて、現場の状況と多少「ズレ」が発生してしまうが、もっと緊迫感を以って、大きい声で的確に伝えることが必要だった。
- ・「お客様参加型」ということで、いつも以上に防災について考え取り組んだ。

危機感を持っていても「いざっ」という時には必ず気弱になると思います。
訓練を重ねることで克服していこうと思います。

以上

事務局だより

平成26年11月

今月の事務局だよりは、川西自主防災会会長岩崎の活動をお伝えします。

さまざまな講演要請

今年の10月は、どうも何時もと違うようです。
私達の縁がないと思われる機関からの講師要請がありました。以下に紹介しますと、

(1) 防災と議員の役割（平成26年度市町村議会議員短期研修）

[開催要項]

- ①日 程 平成26年10月16日（木）～10月17日（金）
- ②場 所 全国市町村国際文化研修所<滋賀県大津市唐崎27-13-1>
- ③参加議員 全国の都道府県の市議会、町議会議員70名
香川県内からは、善通寺市議会より2名参加

岩崎は、「平時から必要な防災活動」というテーマで講義を行ないました。



(2) 平成26年度 自主防災組織育成短期講習会

[開催要項]

- ①日 程 平成26年10月23日（木）～10月24日（金）
- ②場 所 東京都調布市深大寺東町4-35-3 消防大学校
- ③参加者 全国の行政機関において防災業務担当職員64名

岩崎は、「自主防災組織の現状」というテーマで講義を行ないました。



(3) 「防災と地域づくり研修」

～災害時、要配慮者支援を考えよう～

[開催要項]

- ①日 程 平成 26 年 10 月 29 日 (水) 13 : 30～16 : 30
- ②場 所 高知県四万十市中央公民館
- ③参加者 四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村、中土佐町の「民生児童委員」「社会福祉協議会職員」「自治会長」「自主防災会会員」「福祉施設職員」計 154 名

岩崎は、「自主防災組織の現状と取組み」題して 1 時間 15 分の防災講演と、地元団体の取組み報告に対してのコメンテータを努めました。



編集後記

今月の防災減災の輪は、株式会社フジフジグラン丸亀店長徳永様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。